

東京農業の各地域のトピック

都市地域・都市周辺地域の事例

1 農福連携農園で生きがいを創出

杉並区では、都市農地の多面的機能と福祉の連携を図るため、令和3年4月に農福連携農園（すぎのこ農園）を開園しました。障害者や高齢者等の生きがいの創出に加え、就労を希望する障害者の雇用の促進など、福祉事業との連携を強化した取組を行っています。



すぎのこ農園

2 果樹の根域制限栽培

果樹の根域制限栽培は、土量を制限した培地に苗を植え付けることで、根の分布域を制限する栽培法です。樹体のコンパクト化や早期成園化、作業省力化、果実品質向上、土壌病害回避などの効果が期待され、都内では、北多摩地域を中心に約30戸のナシやブドウ農家が導入しています。果実は、共同直売所等で販売され、収益力の向上につながることを期待されています。



ナシの根域制限栽培

3 市民が農業に親しむ農業公園

府中市は、生産緑地を買取った土地を活用し、農地や農業が持つ「環境」「防災」「教育」などの多面的機能や都市農業の魅力を発信する場として、令和3年3月に農業公園を開園しました。園内には、実習農場や体験学習施設が整備され、市民が農業に親しみ都市農業への理解を深めるとともに、地域コミュニティの活性化につながっていくことが期待されます。



農業公園
(府中市西府町)

また、防災兼用農業用井戸、かまどベンチ、災害用トイレなどの防災機能も備えており、災害時の避難場所としても利用できるようになっています。

4 東京生まれのジェラートはいかが？

瑞穂町の清水牧場は、東京の酪農界のトップランナーです。農場に併設されているジェラート加工販売施設「WESTLAND FARM」は、後継者ご夫妻の「自分の牧場の搾りたての牛乳から作ったジェラートを食べてもらいたい」という強い想いが形となった店舗です。店内には様々なフレーバーのジェラートが並び、大変好評です。



ジェラート店内の様子

5 八王子パッションフルーツの名産化へ向けた取組

八王子市のパッションフルーツ生産は、小笠原を旅行した一人の農家から始まりました。現在、「八王子市農協パッションフルーツ生産組合」が結成され、若手生産者を中心に栽培が行われています。

道の駅や共同直売所などで生果が販売されているほか、JA と地元の商工会議所や洋菓子店などが連携し、新たな名産品とすることを目指して、ジャムやワインなど加工品の開発も行われています。



ふるさと納税の返礼品に選出
「パッションフルーツサイダー」

中山間地域の事例

1 台風からの復活／奥多摩のワサビ栽培を守ります

令和元年10月の台風19号は、江戸時代から続く奥多摩町のワサビ田に甚大な被害をもたらしました。ワサビ栽培の復活に向けた石垣等の復旧は困難な事業となりましたが、発災から3年目の令和3年度末に完了しました。

現在では、復旧作業の終了したワサビ田への定植が進み、伝統のワサビ田が復活して、香り高いワサビが収穫されています。



奥多摩町のワサビ田
(上段：被災時、下段復旧後)

2 特産農産物を活用した地域活性化の推進

「エコツーリズム」を推進している檜原村では、農林業と観光業との連携により、都市と農村の交流人口の拡大と雇用創出を図るため、特産品のじゃがいもを活用した焼酎の生産を目指していました。令和元年に、少量での焼酎生産を可能にする焼酎特区として認められ、村は翌年度、「じゃがいも焼酎製造工場」を整備しました。特産品のじゃがいもを原料とした焼酎は、メイド・イン・ヒノハラの特産品として期待されています。工場には焼酎製造の見学スペースや地元農産物の加工・販売施設も設けられています。



じゃがいも焼酎製造工場

島しょ地域の事例

1 大島のブバルディア

伊豆諸島の大島は、古くから花の産地として切花類を中心とした花き園芸が盛んです。その大島で最も多く栽培・出荷されているブバルディアは、東京都中央卸売市場におけるシェアの50%を占めています。

農総研が開発したブバルディア「東京スター」・「東京ダブルスター」シリーズ(いずれも品種登録出願公表中)の導入が試験的に始まっており、大島のブバルディア生産がさらに飛躍することが期待されています。



ブバルディア

2 島の宝物～果皮まで美味しい「八丈フルーツレモン」～

昭和15年に八丈島の農家・菊池雄二氏がテニアン島から持ち帰ったレモンは、栽培がしやすく、果汁が多いという特徴を持ち、「菊池レモン」として多くの島民に栽培されてきました。

従来は、完熟前の緑色の状態で収穫されていましたが、島しょ農林水産総合センターにより果皮に苦味が無く、酸味が柔らかくなるよう樹上完熟させる栽培方法が考案されました。現在では、多くの農家がこの手法で生産しており、「八丈フルーツレモン」のブランド名で出荷しています。



樹上完熟した
「八丈フルーツレモン」

3 小笠原村の農産物

小笠原村では亜熱帯性の気候を活かした農業経営が行われています。熱帯果樹のパッションフルーツや、青い果皮が人気の島レモン、冬でも糖度の高いミニトマトなどの生産が盛んで、耐風性の高い農業生産施設の導入が進んだことにより、生産量は増加傾向にあります。

世界自然遺産登録地である小笠原村には、毎年多くの観光客が訪れており、島内での消費やお土産として、村の特産農産物の需要はますます高まっています。



パッションフルーツ